

2016 年度 入学 試験 問題

世界史 B

(試験時間 10:30~11:30 60分)

1. この冊子は、出願時に選択した科目の問題冊子です。科目名を確認のうえ、解答してください。
2. 解答用紙は、記述解答用紙のみです。
3. 解答は、必ず解答欄に記入してください。解答欄以外に書くと無効となりますので注意してください。
4. 解答は、HBの鉛筆またはシャープペンシルを使用し、訂正する場合は、プラスチック製の消しゴムを使用してください。
5. 解答用紙には、受験番号と氏名を必ず記入してください。

I 以下の文章を読み空欄A～Jにもっとも適切な人名を入れ、設問に答えなさい。

(30点)

英国は元来、北米植民地の自治に比較的寛大であったが、戦費調達のためから、印紙税の導入や植民地が輸入する茶への課税などの措置を取ると、植民地の人々の怒りを買うことになった。13の英植民地の代表がフィラデルフィアに集まった大陸会議で1776年7月4日に採択したのが、有名な「アメリカ独立宣言」で、後に第3代大統領になる（A）が起草した。

19世紀の前半は、アメリカのフロンティアが徐々に西へ広がっていった時代である。とりわけ（A）が大統領であった1803年には、フランスから広大なルイジアナの地を購入し、領土は一気に倍増した。さらに、モンロー大統領の時代にはフロリダをスペインから500万ドルで購入、第10代大統領のタイラーはテキサスを併合、第11代のポークの時代には、メキシコとの戦争（1846～48年）で勝利を収め、1500万ドルを支払って、カリフォルニアやニューメキシコを含む広大な領地を獲得し、現在のアメリカの領土をほぼ確定することになった。

一方で、モンロー大統領は1823年12月の年次教書の中で、アメリカが欧州に干渉しない代わりに、欧州諸国もラテンアメリカ諸国を再植民地化したり、独立を阻もうとしないよう警告した。当時のラテンアメリカでは、アルゼンチン、メキシコ、ブラジルなどが宗主国のスペインやポルトガルから独立し、欧州の列強と対峙していた。モンローはこれらラテンアメリカ諸国を側面支援する形で、欧州の影響を排除に乗り出すと同時に、ラテンアメリカにおけるアメリカの優越的な地位を確立しようとしたのである。アメリカはまだ欧州列強と軍事的に競うだけの力はなかったが、強大な海軍力で大西洋を支配していた英国が、モンローの主張は自国の利益にかなうと判断したのが幸いであった。

奴隷制をめぐる南北の対立は、19世紀前半に徐々に深刻さを増していたが、1860年の大統領選挙で奴隷制に反対する共和党から出馬したリンカーンが当選したことにより、南部諸州の離脱は避けられなくなった。リンカーンが第16代大統領に就任した直後の1861年4月、ついに南北戦争が始まった。

戦争は1863年7月のゲティスバーグの戦いでの勝利や（B）総司令官（後の

大統領)による南部地域攻略作戦の成功などにより、物量に勝る北軍が次第に南軍を圧倒していった。リンカーンが2期目の就任式を行った直後の1865年4月9日、南軍のリー将軍がバージニア州アポマトックスで降伏して、戦争は終結した。

終戦直後の北軍占領下では急進的な改革が各地で行われたものの、1876年の大統領選で共和党のヘイズが当選した際の南北の妥協による占領軍撤退などを経て、南部保守派の抵抗は強まっていった。白人優位を唱える秘密結社クー=クラックス=クラン(KKK)によるリンチも、猛威を振るった。こうして奴隷解放後の黒人の市民権尊重と投票権の確保は、20世紀に入ってもアメリカの大きな社会問題として続いていく。^①

工業面でも農業面でも英国など欧州諸国をしのぐ大国に成長してきたアメリカが、欧州列強と並んで世界の舞台で国益を追求する大国へと急速に成長したのが、19世紀末から20世紀初頭である。

この間に、アメリカはスペインとの米西戦争(1898年)に勝ってカリブ海から太平洋地域にまで勢力を広げる基礎を築き、(C)の時代には「こん棒外交」を展開して、パナマ運河の建設に乗り出す。19世紀前半の「モンロー主義」から大きく踏み込んで、ラテンアメリカ地域への介入の時代に入ったのはこの頃である。中国に関しても、欧州列強や日本に対して、「門戸開放政策」を呼び掛け(1899年)、アジア進出の足掛かりを求めた。さらに、第一次世界大戦では、当初中立を維持するが、2期目に入った(D)は「世界は民主主義にとって安全でなければならない」と宣言して参戦し、英仏など連合国側のドイツに対する勝利に貢献した。

内政面で見ると、この時期のアメリカは基本的に「共和党の時代」であった。

1896年に民主党候補のブライアンとの激戦を制して当選した(E)は産業界の支持を背景に、高い保護関税(ディングリー法:1897年)を導入しつつ、金本位法を制定(1900年)し、経済的な繁栄と輸出の拡大を図った。この時代に都市部の中産層や農民、そして労働者層が共和党の支持基盤として固まり、再びブライアンとの対決になった1900年選挙では楽々と再選された。(E)は1901年9月に暗殺されたものの、副大統領から昇格した(C)は、これまで大統領の死で昇格したなどの副大統領経験者よりも精力的で有能であり、猛烈な勢いでアメリカを引っ張る指導者に成長した。

順調に発展していたアメリカ経済が一気に暗転したのが、1929年10月24日のいわゆる「暗黒の木曜日」である。株価が大暴落し、それは世界中を巻き込む大恐慌へと発展していった。1933年の失業率は実に25%に達し、労働者の4人に1人が職のない状態になった。当時の（ F ）大統領は、実業家としても成功した尊敬を集める人物であった。しかし、基本的に自由主義経済を信奉し、連邦政府の過度な介入を潔しとしない姿勢が完全に裏目に出て、アメリカ経済は想像を絶する危機に陥っていった。

未曾有の大恐慌で疲弊したアメリカの経済・社会の立て直しという重責を担ったのは、久しぶりに民主党から大統領となった（ G ）であった。その過程で民主党の支持基盤は都市部の中産層や低所得労働者、黒人、農民と広範に広がり、強固な民主党支持基盤を築くことに成功した。（ G ）は空前絶後の4選を果たし、この強固な民主党支持基盤は1968年の大統領選で共和党の（ H ）が登場するまで基本的に維持された。南北戦争当時から南部を支持基盤にする少数党に甘んじていた民主党が、北部に勢力を伸ばし、多数派政党に脱皮したのが、（ G ）の時代なのである。

第二次大戦末期の数カ月間は、（ G ）の死で副大統領から昇格した（ I ）がアメリカを中心とする連合諸国を指導した。その彼が直面した戦後の危機はソ連との「冷戦」である。チャーチルが1946年3月にミズーリ州のフルトンで行った演説の中で、西欧と東欧の間に「鉄のカーテン」が下ろされたと言ったように、大戦が終わって今度は東欧を支配下に置いた共産主義国ソ連と西側とのイデオロギー対立が、長く世界を引き裂く時代に突入したのである。

（ H ）はベトナム戦争における「ベトナム化」を進めて米軍の関与を縮小する一方、中国との関係正常化という思い切った外交転換に踏み出した。ソ連とも緊張緩和を進め、戦略核兵器の制限に踏み切るなど冷戦を既成事実と認めた上でアメリカ外交のダイナミックな展開を演出した。しかし、ベトナム戦争は1975年4月、南ベトナムの首都サイゴン（現ホーチミン市）陥落という劇的な形で終結。南北ベトナムは社会主義国として統一され、アメリカは外交的に手痛い打撃を被った。

一方、1972年選挙で（ H ）は圧勝するが、共和党陣営が選挙戦の最中に民主党本部の盗聴を凶っていた事実が発覚。大統領がもみ消し工作にかかわっていたとして、大統領の犯罪として重大事件に発展した。（ H ）は結局、議会での弾劾が確

実になったのを見極めて辞任（1974年8月9日）。建国以来初めて、任期途中で辞任に追い込まれた不名誉な大統領となった。

（ J ）のアメリカは財政赤字と貿易赤字の二つの赤字に苦しみ、特に1期目は失業率も高かったが、カーター時代の負の遺産を背負って出発した彼は、持ち前の楽天的な性格と有能な人材に政権運営を任せる企業の会長的な態度を取って、アメリカを徐々に回復に導いた。1980年代のアメリカは1990年代以降の経済的飛躍のスタートとなった。（ J ）は1981年の就任演説で、「政府は我々の問題の解決にはならない」と語り、民主党時代に続いた大きな政府こそ問題であり、政府の関与はできるだけ少なくして「小さな政府」を目指すと明言。国民の創造力と民間企業の活力に国家再生の期待を掛けたのである。彼は「（アメリカの）衰退は不可避ではない。何もしなければ、破滅が降りかかってくるのだ」と述べて、国民を奮い立たせた。

問 下線部①に関連して、以下の語句をすべて用いて、公民権運動に対するケネディ大統領とジョンソン大統領の取り組みについて150字以内で論じなさい。なお、用いた語句に下線を引きなさい。ただし、数字は1マスに2字書くことができる。

冷戦、暗殺、公民権法、「偉大なる社会」、人種差別

II 以下の文章を読み、設問に答えなさい。(20点)

西ローマ帝国滅亡後、その保護者を失い、都市ローマも西ゴートのアラリックや、フン人のアッティラなどの掠奪を受けてローマ教会は存亡の危機に立たされた。他方で、コンスタンティノープルの東方教会は、皇帝教皇主義を明確にし、次第にローマ教会との違いが大きくなっていった。

ここで、新たにローマ教会に接近してきたのがフランク王国であり、496年クロヴィスの改宗によってローマ教会はフランク王国との結びつきを強め、それを新たな政治的保護者とすることによって、ビザンツ帝国およびコンスタンティノープル教会と対抗することができた。その後、ローマ教会ではベネディクトゥスによる修道院運動が始まり、ベネディクト派の修道士を派遣してゲルマン人、特にアングロ=サクソン人への布教を積極的に進めた。^①

キリスト教両教会の対立は、726年の聖像禁止令を頂点とした聖像崇拜問題でさらに激しくなった。800年にはカールの戴冠^②によって西ヨーロッパ世界は宗教的にも政治的にも東方世界と分離することになり、ついに1054年にヨーロッパのキリスト教教会は東西に分裂することとなる。

ローマ=カトリック教会は、ローマ教皇を頂点とした聖職者階層制組織をつくりあげ、西ヨーロッパ世界の政治・社会・文化の上で重要な存在となり、叙任権闘争^③を通じて世俗の皇帝権力を上回る権威を確立した。そのような権威を背景に11世紀末から十字軍運動を展開、教皇権は13世紀にその全盛期を迎える。^④

1303年のアナーニ事件では教皇が拉致されて憤死し、さらにフランス王によって^⑤教皇がアヴィニョンに幽閉されるという「教皇のバビロン捕囚」が起こり、教皇の権威の動揺は表面化する。さらにローマ教皇が同時に2人から3人存在するという教会大分裂(1378~1417年)という事態となった。そのような中、イギリスのウィクリフやベーメンのフスのような先駆的な宗教改革者が現れ、教皇と教会のあり方に対する批判が始まった。しかしその権威はまだ高く、大航海時代でのポルトガルとスペインの勢力圏を巡る調停^⑥を行い1493年に教皇子午線が定められた。^⑦

サン=ピエトロ大聖堂の修築費用の捻出のため、ドイツで贖宥状の販売が行われた^⑧ことから、ルターによる宗教改革が始まった。新教勢力が大きくなると、ローマ教皇^⑨

はヨーロッパでの絶対的権力を失い、中部イタリアの教皇領を支配する一君主という存在となった。そのような教皇の権威の低落を嘆き、教皇への服従というカトリック教会の信仰の根幹を再建しようとしたのが、対抗宗教改革の運動であった。^⑩

問 1 下線部①に関連して、この事業を推進した教皇の名前を答えなさい。

問 2 下線部②に関連して、この戴冠を行った教皇の名前を答えなさい。

問 3 下線部③に関連して、神聖ローマ皇帝ハインリヒ 4 世を破門した教皇の名前を答えなさい。

問 4 下線部④に関連して、クレルモン公会議を招集し、十字軍を提唱した教皇の名前を答えなさい。

問 5 下線部⑤に関連して、イギリス王ジョンを破門した教皇の名前を答えなさい。

問 6 下線部⑥に関連して、この教皇の名前を答えなさい。

問 7 下線部⑦に関連して、この教皇の名前を答えなさい。

問 8 下線部⑧に関連して、サン=ピエトロ大聖堂の改修を計画してブラマンテに設計を担当させ、またミケランジェロにシスティナ礼拝堂の天井画『天地創造』を描かせた教皇の名前を答えなさい。

問 9 下線部⑨に関連して、ルターを破門した教皇の名前を答えなさい。

問 10 下線部⑩に関連して、イギリス王ヘンリ 8 世を破門した教皇を答えなさい。

Ⅲ 以下の文章を読み、設問に答えなさい。(30点)

古くから世界の各地で人々は移動、接触、交流、そして紛争を続けてきたが、とりわけ大航海時代にヨーロッパ人がアメリカ大陸を征服し、また新たなアジア貿易ルートを開発し、世界的な分業体制が形成されて以降、より大規模な人の移動が行われるようになり、今日の地球上の住民分布を形成していった。近代世界史における巨大な人口移動としては、第1にアフリカ人のアメリカ大陸への強制移住(奴隷貿易)、第2にヨーロッパ人のアメリカ大陸への移住(自由移民)、第3に中国系、インド系などのアジア人の海外移住(出稼ぎを含む)をあげることができる。ここでは、第1と第3の移住について、みてみよう。

スペインは、コロンブスの探検以後、アメリカ大陸への進出を本格化し、1521年にはメキシコの(A)王国を滅ぼし、1533年にはインカ帝国を征服した。スペイン人征服者(コンキスタドール)は新しい領土で鉱山開発や大農園の経営を行い、そのための労働力として(B)と呼ばれた先住民を使役したが、苛酷な労働と新たに広まった伝染病により、先住民の人口は激減した。ポルトガルの支配したブラジルや、イギリス、フランス、オランダ等が進出したカリブ海諸島は、もともと先住民人口が希薄であったことに加えて、大規模なプランテーションが開発されたため、労働力不足はより深刻であった。こうして、アフリカから中南米地域に大規模な奴隷の導入が行われた。

この大西洋奴隷貿易を盛んに行ったのは、ポルトガル、イギリス、フランスであった。彼らの船は、西欧から(C)や雑貨、織物などを積み込んで船出し、西アフリカでこの積荷と交換で奴隷を獲得し、ついでカリブ海諸島やアメリカ大陸に向かった。運ばれた奴隷はカリブ海諸島やアメリカ大陸で(D)、タバコ、コーヒー、藍などの農産物と交換され、これらはまたヨーロッパへと運ばれた。この三角貿易はヨーロッパ諸国に巨大な利益をもたらしたほか、ヨーロッパ人の消費生活を大きく変えた。

奴隷貿易はやがて道徳的に非難されるようになり、イギリスでは1807年に廃止され、1833年には英帝国全域の奴隷制が廃止されたが、南北アメリカではなお奴隷制が続き、アメリカ合衆国では南北戦争後の1865年、スペイン領キューバでは1880年、

ブラジルでは1888年によく奴隷制が廃止された。この4世紀にわたる奴隷貿易によってアフリカから強制的に移動させられた成年人口は1000万人以上と推計されており、アフリカ社会の発展に深刻な打撃を与えた。

①
19世紀には、交通・通信の技術革新が起こり、「世界の一体化」が急速に進行した。そして、綿花、茶、鉱物などの世界市場向け生産の発展や鉄道建設等の進展と、世界的な奴隷制廃止の動きの中で生じた労働力需要に応じて、中国人やインド人などのアジア系住民による移住または出稼ぎが大量に行われた。

中国では、歴史的に黄河中流域から周辺へ、また北から南へという人口の流れが続き、漢族の居住地域が拡大してきた。中国の人口は明代には1億人に達したといわれるが、清代には爆発的に増大し、18世紀末には3億人、19世紀半ばには4億人あまりに達したとされる。これは、社会の安定、アメリカ大陸起源の新たな農作物の普及とともに、周辺部及び山間部への移住、開拓による農耕地の面積の拡大によってもたらされた。だが、移住に伴う社会的摩擦を背景に大きな反乱が起きることもあった。

③
19世紀半ば以降、アヘン戦争による開港の後、中国東南部の沿海地域から海外に移住する中国人（華僑）が激増し、開発の進む東南アジアや南北アメリカを中心に、さらにカリブ海地域やオーストラリア、アフリカにまで移住または出稼ぎをするようになった。中国系移民は当初は劣悪な労働条件の下に置かれ、現地で差別に直面することもあったが、中には商業で成功するものも現れ、本国への送金や投資は巨額にのぼった。また、「華僑は革命の母」（孫文）と言われるように、彼らは清末以来、中国ナショナリズムの先駆者となり、中国国内の政治的変革を支援したが、現地社会への融合は容易に進まず、時に摩擦をもたらすこともあった。

④
他方、インドは伝統的に人口過剰でありながらも、ヒンドゥーの教えにより、域外移住は好まれなかったが、19世紀後半には世界的な奴隷制廃止による代替労働力需要を受けて、年季契約労働者として海外にわたるインド人が急増した。その行き先は、カリブ海諸島、太平洋諸島等の遠隔地に及び、労働条件はきわめて悪く、契約期間終了後も帰国できず、永住するものが少なくなかった。ついで、同じくイギリス植民地であり、より近いスリランカ、ミャンマー、マラヤ、さらには東アフリカへの出稼ぎや自由移民も大量に行われた。インド人が海外でついた職業は、農場や鉱山で働く労働者から、商人、兵士、医師、弁護士などさまざまであった。たとえば、（ E ）

は南アフリカで弁護士として長く活動し、人種差別に抗議し、現地インド人の平等な権利獲得のための闘いを指導し、非暴力闘争の端緒を開いた。

第2次世界大戦後、欧米の旧植民地が続々と独立するようになると、これらの地域の中国系、インド系住民は複雑な民族問題に直面した。1960年代には東アフリカのザンジバル、70年代にはウガンダでインド系住民が圧迫され、多くの者が他国に脱出、再移住を余儀なくされた。また、マレー半島では1957年のマラヤ連邦独立を経て、1963年に周辺の旧英領地域もあわせてマレーシア連邦が成立したが、マレー人優遇政策に対する中国系住民の反発から、1965年には（ F ）が分離独立した。

近代世界史の中では膨大な数の人々が自発的あるいは強制的に移住を行ってきた。そこではさまざまな悲劇や苦難もあったが、他方、移住によってよりよい生活を得たもの、新天地を切り開き、活躍の場を見いだしたものも少なくない。今日、グローバル化の進展する中、移民たちのもつ活力や多文化性、言語力、国境を越えたネットワークは、彼らが世界のビジネスで活躍する上で重要な資産となっている。

問1 空欄A～Fに当てはまるもっとも適切な語句を記しなさい。

問2 下線部①に関連して、当時アフリカ沿岸部には奴隷貿易に依存して栄えた国が存在した。そのような国の名称を一つあげなさい。

問3 下線部②に関連して、明代とはいつからいつまでか。下記の(ア)～(オ)から正しいものを選びなさい。

(ア) 1279年～1368年 (イ) 1338年～1573年 (ウ) 1368年～1644年

(エ) 1603年～1868年 (オ) 1644年～1912年

問4 下線部③に関連して、18世紀末から19世紀初めにかけて四川と湖北の山間部で起きた大規模な反乱の名称を記しなさい。

問5 下線部④に関連して、イギリス植民地のマレー半島では、缶詰用ブリキ生産の発展による需要増大に應えるべく、鉱山が盛んに開発され、多くの中国系移民が使役された。これらの鉱山で採掘された鉱物の名称を記しなさい。

問6 下線部⑤に関連して、孫文による革命組織創立から辛亥革命に至る過程について、下記の語句を用いて100字以内で述べなさい。なお、解答中で指定語句には下線を引きなさい。ただし、数字は1マスに2字書くことができる。

袁世凱 臨時大總統 1894年 1905年 1911年

IV 以下の文章を読み、空欄A～Jにもっとも適切な語句を入れなさい。ただし、同じ記号には同じ語句が入る。(20点)

アフガニスタンはアジア大陸のほぼ中央に位置し、西アジア、インド亜大陸、中央アジアに連なる交通の要衝であり、古い歴史と多様な文化的伝統をもっている。紀元前6世紀にはアフガニスタンは(A)朝ペルシア帝国に編入された。前4世紀、マケドニアの(B)大王の東方遠征軍はこの地域も征服し、その後ギリシャ系のバクトリア王国が成立した。前2世紀後半には、(C)に追われた月氏が進入してバクトリアを倒して建国し、大月氏と呼ばれた。後1世紀には、イラン系のクシャナ(クシャーン)朝が建国され、2世紀中頃には(D)王の下で西北インドから中央アジアに及ぶ地域を支配した。その後、3世紀には(E)朝ペルシアが台頭し、シャープール1世の下で、ローマ帝国をしばしば破るなど強盛を誇り、アフガニスタンもその支配下に入った。

7世紀には、ムスリムとなったアラブ人が大征服を開始し、(E)朝を滅ぼし、ついで8世紀にはアフガニスタンもこれに征服され、以後イスラーム化が進んだ。10世紀後半にはトルコ系の(F)朝が建国され、アフガニスタンを本拠とする最初のイスラーム王朝となった。(F)朝はしばしば北インドに侵入し、イスラームのインド浸透の先駆けとなった。その後、11世紀から18世紀半ばに至るまで、アフガニスタンでは、セルジューク朝、ホラズム朝、モンゴル系の(G)=ハン国、ティムール帝国、サファヴィー朝などの諸王朝の支配が交代した。1747年にはパシュトゥーン人(アフガン人)のアフマド=シャーがドゥッラーニー朝を建てた。これがアフガン国家の始まりである。19世紀にはアフガニスタンはイギリス・(H)両帝国の勢力争いの場となり、2度のイギリス・アフガニスタン戦争を経て、1880年イギリスの保護国となった。だが、第1次世界大戦でイギリスが疲弊し、(H)が革命で混乱すると、アマヌッラー=ハンはインドに攻め込み(第3次イギリス・アフガニスタン戦争)、1919年、アフガニスタン王国の独立を勝ち取った。

第2次世界大戦後は、アフガニスタンは東西冷戦下、米ソの援助競争を利用して経済開発をはかったが、十分な成果は得られず、政情不安になり、1973年には王政が倒れた。1978年以降、アフガニスタンは戦乱が続き(アフガン紛争)、1979年には

(I) 軍が介入したが、アメリカや中東諸国の支援するイスラーム・ゲリラの激しい抵抗を受け、1989年に撤退した。だが、アフガニスタンではその後も内乱が続き、1996年にはイスラーム原理主義派の (J) が政権を樹立した。やがて、2001年9月11日にアメリカ合衆国で同時多発テロ事件が起きると、米大統領ジョージ=ブッシュはテロの黒幕であるアル=カーイダの根拠地となっているとして、同年11月アフガニスタンに対し軍事行動を行い、(J) 政権を崩壊させた。その後、アフガニスタンでは国際連合の主導で暫定政権が成立し、復興に努めているが、国内はなお不安定な状態が続いている。



